

情報・システム研究機構経営協議会（令和元年度第1回）議事要旨

日 時：令和元年6月21日（金）10：00～12：15

場 所：情報・システム研究機構 会議室

出席者：安宅和人委員、五十嵐道子委員、國井秀子委員、篠崎一雄委員、須江雅彦委員、長谷川眞理子委員、古谷研委員、藤井良一委員（議長）、津田敏隆委員、喜連川優委員、椿広計委員、坂口広志委員、中村卓司委員、花岡文雄委員

オブザーバー：鈴木久敏監事、藤山秋佐夫施設長

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

議事に先立ち、議長より、本会の成立要件の確認及び新委員の紹介があった。また、本会の規則の確認と併せて津田委員を副議長に指名した。

議 事：

【審議事項】

（1）令和2年度（2020年度）概算要求について

坂口委員より、資料1-1～1-4に基づき説明があり、中村極地研所長より新規追加となった事業についての補足説明があった。審議の結果、役員会にて審議することが了承された。また、軽微な修正については機構長一任とすることが併せて了承された。

（2）平成30年度決算について

坂口委員より、資料2-1～2-6に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。安宅委員より、流動資産より流動負債が大きい点について質問があり、確認後、後日回答することとした。また、軽微な修正については機構長一任とすることが併せて了承された。

（3）平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

津田委員より、資料3-1～3-3に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。また、軽微な修正については機構長一任とすることが併せて了承された。

<意見概要>

- 機構はデータサイエンスの人材育成に非常に貢献しており、これを通じて各領域の刷新も行われている、という点を強調すると良い。
- 計画を達成したことを評価するだけでなく、どのような社会的影響があったかを述べないと、評価委員会にとって印象は残らないのではないかと。

→ 社会的影響については現在調査しており、その結果まで（評価委員会に）説明したいと考えている。

● 広報活動が若い世代に対するアピールになったような成功例は他にあるのか。
→ 極地研究所の南極・北極科学館、サイエンスレポートなどがある。

● 情報セキュリティの問題は非常に重要なので、アピールすると良いのではないか。

（４）情報・システム研究機構長選考会議委員の選出について

藤井議長より、資料４－１、４－２に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。

【報告事項】

（１）経営協議会委員からの提言等とその対応状況等（平成 30 年度）

藤井議長より、資料５に基づき報告があった。

<意見概要>

- 人事評価については、給与への反映、というものばかりを追求するようなことにならないよう、慎重に議論していくべきである。
→ 将来のパフォーマンスが良くなるための評価なので、注意していきたい。

（２）平成 30 年度監事監査報告について

鈴木監事より、資料６－１、６－２に基づき報告があった。

<意見概要>

- （極地研のアニメを例に）広報活動が評価されて寄附も増えたのであれば、それをつなげたストーリーにした方が分かりやすくなるのではないか。寄附の額が少なくても件数が増えたことは、サポーターが増えたこと、すなわち国民の理解が進んだ、という良い例である。

（３）大学共同利用機関法人における会計監査人の選任について

坂口委員より、資料７に基づき報告があった。

【その他】

（１）大学共同利用機関改革に関する作業部会について

藤井議長より資料８－１～８－４に基づき報告があった。

(2) 研究所活動状況報告（データサイエンス共同利用基盤施設）

藤山施設長より、資料9に基づきデータサイエンス共同利用基盤施設の活動状況について報告があった。

<意見概要>

- データサイエンス、データ中心科学、オープンサイエンス、といったことが注目されており、滋賀大学の志願者数増も加わって社会的インパクトが非常に大きくなっているが、業務実績報告の中にデータサイエンス関係でIV評価のものがなかったのが残念である。
→ 人材育成の中で特記事項には含まれている。また、昨年度は全体評価の中で、人材育成に関して評価して頂いている。

- （クックパッドと古文書の事業を例に）機構のことが出来るようなことをもっとすべきである。
→ 今後進めたい。

- データサイエンス共同利用基盤施設は基本的には大学のみを開いているのか。
→ （公募型共同研究を例に）制限はかけておらず、一般企業や自治体の方も加わっているが、3年目の公募をやっているところで、広まるには少し時間がかかる。

- データサイエンス共同利用基盤施設として分かりやすいセールスポイントや強みはないか。
→ データサイエンスの高度人材育成プログラム、(データサイエンスから一番遅れを取っているであろう) 人文社会系との協力が挙げられる。現在作っているのはパイロットプログラムで、それらを統合するためのシステム作りに専念している。次の段階として、大学の機能強化に役立つような形で社会に出すことを考えている。

(次回の経営協議会の日程について)

- ・ 次回の経営協議会は、10月21日(月) 15:30から、情報・システム研究機構会議室にて開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・ 情報・システム研究機構経営協議会委員名簿
- ・ 情報・システム研究機構経営協議会規則

- ・ 前回議事要旨
- ・ 令和 2 年度（2020 年度）概算要求 機能強化経費「機能強化促進分等」について……………【資料 1-1】
- ・ 令和 2 年度（2020 年度）概算要求 大規模学術フロンティア促進事業について……………【資料 1-2】
- ・ 令和 2 年度（2020 年度）概算要求 共通政策課題（基盤的設備等整備分）について……………【資料 1-3】
- ・ 令和 2 年度（2020 年度）概算要求 施設整備費要求事項について……………【資料 1-4】
- ・ 平成 30 事業年度財務諸表（簡易版）……………【資料 2-1】
- ・ 平成 30 事業年度財務諸表……………【資料 2-2】
- ・ 平成 30 事業年度事業報告書……………【資料 2-3】
- ・ 平成 30 事業年度決算報告書……………【資料 2-4】
- ・ 独立監査人の監査報告書……………【資料 2-5】
- ・ 監査報告……………【資料 2-6】
- ・ 平成 30 事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）……………【資料 3-1】
- ・ 「注目すべき事項」候補一覧……………【資料 3-2】
- ・ 平成 30 事業年度に係る業務の実績報告書（説明資料）……………【資料 3-3】
- ・ 情報・システム研究機構長選考会議規則……………【資料 4-1】
- ・ 令和元年度情報・システム研究機構長選考会議構成員（案）……………【資料 4-2】
- ・ 経営協議会委員からの提言等とその対応状況等（平成 30 年度）……………【資料 5】
- ・ 監査報告……………【資料 6-1】
- ・ 平成 30 年度監事監査意見書……………【資料 6-2】
- ・ 大学共同利用機関法人における会計監査人の選任について（通知）……………【資料 7】
- ・ 第 4 期中期目標における大学共同利用機関の在り方について（審議のまとめ）（抄）……………【資料 8-1】
- ・ 第 10 期大学共同利用機関改革に関する作業部会における主な調査審議事項（案）……………【資料 8-2】
- ・ 大学共同利用機関改革に関する作業部会における当面の主な検討スケジュール（案）……………【資料 8-3】
- ・ 本日も議論いただきたい論点（案）……………【資料 8-4】
- ・ 研究所活動状況報告（データサイエンス共同利用基盤施設）……………【資料 9】